

新宿区教育委員会会議録

令和2年第7回臨時会

令和2年7月22日

新宿区教育委員会

令和2年第7回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和2年7月22日(水)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 5時07分

場 所 新宿区役所5階大会議室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	酒 井 敏 男	教育長職務代理者	今 野 雅 裕
委 員	古 笛 恵 子	委 員	星 野 洋
委 員	山 下 浩 一 郎	委 員	羽 原 清 雅

説明のため出席した者の職氏名

次 長	村 上 道 明	教育調整課長	齊 藤 正 之
教育指導課長	荒 井 亮 宏	教科用図書 審議委員会委員	坂 元 竜 二
教科用図書 審議委員会委員	池 田 知	社会科調査委員会 委員長	門 脇 伸 也
英語科調査委員会 委員長	福 田 忠 春		

書記

教 育 調 整 課 査 平 明 生	教 育 調 整 課 係 国 分 克 行
-------------------	---------------------

議事日程

協 議

- 1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について（教育指導課長）

◎ 開 会

○教育長 ただいまから、令和2年新宿区教育委員会第7回臨時会を開会いたします。

本日の会議には全員が出席しておりますので、定足数を満たしています。

本日の会議録署名者は、山下委員にお願いいたします。

○山下委員 はい。

◎ 協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について

○教育長 本日は、議事はございません。

前回に引き続き、「協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

本日は教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、令和3年度新宿区立中学校教科用図書審議委員会委員及び各教科調査委員会委員長にも出席をしていただいております。

本日の協議の進め方ですが、専門的に調査検討を行った各教科の調査委員会委員長から、種目ごとに、指導要領の中での目標、教科の特性等、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて説明を受け、質疑を行います。

その後、審議委員会委員から、種目ごとに審議委員会における審議の内容などについて説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

本日は、社会（地理的分野）、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）、地図、英語について協議を行います。

なお、本日協議する種目の教科用図書については、8月7日の第8回定例会で採択を行います。

それでは、社会（地理的分野）について、指導要領の中での目標や、評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○社会科調査委員会委員長 社会科調査委員長、新宿養護学校校長の門脇伸也です。私から社会科（地理的分野）教科用図書の調査について、御報告いたします。

まず、社会科の教科目標でございます。

学習指導要領では、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通じて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形

成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指すと示されており
あります。

そして、地理的分野の目標でございます。

学習指導要領では、「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決
したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる
平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり
育成する」と示されておりあります。

具体的には3つの方向に示されておりあります。

1つ目、我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事情や地理的特色を理解する
とともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につ
けるようにする。

2つ目、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間
と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的
に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断し
たことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

3つ目、日本や世界の地域に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで
見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考
察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文
化を尊重しようとすることの大切さについての自覚を深める、の3点となっております。

では、その内容となります。

この目標を達成するために、学習の内容は5つの改訂がされておりあります。

1つ目、世界と日本の地域構成が冒頭に設定されておりあります。

2つ目、地域調査に関わる内容の構成を見直し、身近な地域の調査より、地域の諸事情や
地域的特色を理解するとなっております。

そして、3つ目、世界の諸地域、学習における地球的課題の視点を導入しています。

4点目、日本の諸地域、学習における考察の仕方を柔軟化しておりあります。

5点目、日本の様々な地域の学習における防災学習を重視しておりあります。

共通事項といたしまして、各社共通していることについて、お伝えします。

小学校の社会科とのつながりについて解説したり、分かりやすく表示しておりあります。

ここで一つ一つ資料をお見せしたいと思います。

地理、歴史、公民、小学校から中学校、そして高等学校へ、また、新しく開設する高等学校の科目にどのようにつながっているか。また、この中には新学習指導要領で示すところのそれぞれの時数、地理では105時間、歴史でも105時間、公民では140時間というような時数が示されております。

そして、今回の改訂がどのような順番になっているか。

小学校の例えば3年生のときに行ったものが、小学校3年生は社会科の入り口に当たります。生活科から社会科に。それが今度は中学校にどこで影響しているのか、4年生のときにはどうか。5年生のとき、6年生のときにはどうかということです。ここでは実際に国会議事堂を見に行ったり、最高裁判所を見たりという活動の部分が多くなります。それがどこにつながるかというのが、一目分かるようになっております。

これを先ほど申し上げた小学校の社会科とのつながりを解説したり、分かりやすくするという、ここから、この地理も歴史も公民も始まっております。

共通するところの続きでございますが、編、章、節、その初めに小学校の社会科で習った言葉を明記したり、平易な言葉で問いや時にはクイズ、解説を載せたりしています。

さらに、目次や見出し、編、章、節のページには、色別を用いて、構成の分かりやすい工夫を施しています。単元のまとめに、小集団での対話的な学習、話し合いを行いやすい設定がされています。

また、編、章単元の終わりに、振り返りやまとめを行いやすいような問いかけが設定されています。写真や地図、イラストには、大きさや鮮明さと視覚的に興味関心を引きつけるものが掲載されているのが、共通しているところです。

各社の編集の違いということ、学習内容をより深められる課題が分かりやすく示されているかどうか。このことにより小集団での対話的な学習が深まるかどうか左右されます。

また、地図帳を併用することで、図、統計資料や動画と関連づけて、知識及び技能の向上を効率よく進められるかどうか。

さらに、先ほど申し上げましたが、授業時数ということになります。授業時数と学習内容の量から、授業内の振り返りもさることながら、家庭での学習へ取り組みやすいものになっているかどうか。

こういったところが評価の差となりました。詳細は報告書を御覧ください。

続きまして、調査委員会の中で話題になったのは、授業と利用教科図書の扱いです。

主体的、対話的で深い学び。この実現に向けた授業改善というのが今回の学習指導要領で

示されているところですし、それに沿った形で各社教科用図書が作られていると理解しています。

実際に地理の授業で教科書がどのように使われているかですが、これまでも小学校を中心にして、中学校においても授業改善は積極的に進められてきていますが、新学習指導要領を受けて、その取組の質をさらに向上されることが目指されていることには変わりありません。

しかし、1コマの授業時数が50分です。1年生は、地理は週1時間から2時間程度。そして、併せて残りの1時間を歴史の授業としています。2年生も、地理は同じように1時間から2時間程度。そして、歴史の授業を併せて所定の時間の中で年間を終えるという形になります。

学校の中では、定期考査、中間考査や期末考査というのを機会にして、この地理と歴史の授業のバランスを1対2とするのか、2対1にするのか、そのような工夫をして進めていっております。

授業時間1コマ50分の中で、授業の流れは導入でほぼ5分ぐらい、本日の狙いと授業の構造を大きく押さえ、そして35分から40分程度で授業の展開をします。この中にワークシートの作業も含まれます。教科書は机上の上にある状態だと思います。そして、まとめ、振り返りで5分ほど。

さて、本調査委員会も調査委員を地理各分野に、地理4社と地図帳2社、教科用図書について調査を行いました。どの教科用図書も小学校社会科の各内容と関連が考慮されていたり、高等学校の新科目への接続を見据えた改訂が施されています。

A評価から順にお伝えいたします。

まずは帝国書院についてです。

QRコードがつけられおり、ICTを活用した家庭学習に取り組みやすく、授業内でも取り組みやすい。

章や節の終わりに学習の振り返りが設けられているため、基本的な学習内容もまとめやすい。また、記述式の設問もされているため、学力の定着に有効だという声が上がっています。

円滑な接続・発展を見据えた構成ということでは、章、節の初めに問い、序説は生徒が学習の見通しが立てやすく、また、学習課題に臨みやすいような示し方がされていると捉えております。

続いて、東京書籍についてです。

やはりQRコードがつけられおり、ICTの活用もしやすい。同社の地図帳を活用して、

学習内容を確認し、深めることもできます。

円滑な接続・発展を見据えた構成ということで、小学校の社会で習った言葉を明記し、小学校とのつながりを分かりやすくしています。

分量と写真、図版等の資料とのバランスはよく、見やすいレイアウトになっております。

続いて、B評価です。

B評価の教育出版についてです。

こちらにも円滑な接続・発展を見据えた構成ということで、各編の冒頭に小学校で学習した内容を設け、これからの学習の見通しと見方・考え方を示しています。そこには写真と地図資料により位置関係を把握しながら学習を進めることができる工夫がされています。

最後に、日本文教出版です。

円滑な接続・発展ということでは同じです。

2編、3編では、アクティビティのコーナーを設け、活動と小集団とでの対話が進めやすくなる工夫もされています。

印象に大変残る写真が多く、ビジュアル的にもよいです。

文章や図版、構成のバランスがよく、小単元末のまとめの学習を活用することで、生徒の理解も深めやすいという声が上がっています。

さて、これら4社ですけれども、本区の様子を考え、実は、委員の中からは、ここ一、二年間の学力調査の結果を見て、このようなことが言われました。

世界地理や日本地理の入り口がシンプルのほうが分かりやすくいいのではないかと。苦手意識を少しでも減らせるような、そういう興味を持てるような何かがある、そんな教科書がよいのではないかと。ただ、シンプルだとしても、子どもの興味関心が引きつけられるような内容でなければなりません。シンプルだからといって、量が少ないからよいというわけではありませんでした。

このようなことを踏まえて、全体を通じてですが、今回の教科用図書の大きな変更点であるQRコードやデジタルコンテンツの比較を行いました。

例えば、A評価をつけた帝国書院、東京書籍については、グラフ、地図、解説等を含めて、教科書自体が見やすく、諸地域では各地域の特徴をつかみやすい工夫がありました。このことによって、学習課題を生徒がイメージしやすかったです。また、委員の間でもデジタルコンテンツを試してみたところ、こういうふうに見えるんだな、資料集等がなくても、教科書とデジタルコンテンツによって家庭学習が苦手な子でも進められるなという、そんな声が上が

がりました。

また、B評価をつけた教育出版、日本文教出版については、印象的な写真が多く、ビジュアル的にも大変よく、バランスも優れております。

それぞれ工夫された教科用図書でしたが、調査委員としては、諸地域では各地域の特徴をつかみやすく、分かりやすく工夫されている。また、授業内で端末を使用できる。このことにより小集団での対話的な学習が深まるのではないかという部分を総合的に評価し、帝国書院を推薦いたします。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

○羽原委員 ありがとうございました。

SDGsについて、これは地理、あるいは地図の中で、特に学習指導要領の中ではほとんど触れていないけれども、SDGsの授業というか、教えることにおいて何か特別の意味を持たせるのか、あるいはそれほどのことはないものなのか。どういう意味合いを授業の中で持たせるのかについて、ちょっと伺いたいと思います。

○社会科調査委員会委員長 SDGsについては、地理そのものがよりよい社会を目指してと
いうところに結びつくので、SDGsの中に示されているような地球的課題や、それへの
取り組み方という視点では、世界の地域や日本の地域を学ぶ中で、最終的にはそれらを各
テーマを持って取り組むということになります。

その点は、教科書の初めにSDGsについて掲示されていますので、大変取り扱いやすい
と思います。地理、歴史、そして最後3年目の公民に至るまでの流れの中では、必要な
ことであるというふうに、話題には上りました。

○羽原委員 これまでの授業の中で、どういう意味合いを持たせて授業が行われていったか。
あるいは、今後の4年間に向けて、教材的にこの部分をどういうふうに教えたらいいとか、
そういう点は具体的な論議の対象にはならなかったですか。

例えば、帝国書院は、文字は非常に読みにくいですが、冒頭にこれがある。それから東書にし
ても比較的総論的な部分で取り上げているから、これは地理あるいは地図の学習の中で、授
業総体の中でどういう意味合いを持っているのか。

その点の論議がなかったらそれは仕方がないが、これまでの4年間の教科書ではどうい
うふうな扱いであったか。その辺を伺いたいです。

○教育指導課長 SDGsについては、ここ一、二年で出てきたという話題ではございません。それよりも前から社会の中で話題には出てきていて、ただ教科書や学習指導要領において、大きく取り上げられるようになったのは今次ということになっております。

それ以前から、SDGsの内容でいいますと、例えば貧困をなくそうであるとか、そういったことに関しては、もちろん社会科の地理に限らず公民などでも触れていたことは事実でございます。

○教育長 よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問等ございますでしょうか。

○山下委員 地理の一番最後、地域の在り方についてというところで、おそらく今回の改訂の結果だと思ふんですけれども、授業でまちに出て、自分たちでレポートを書くというような授業が実際になされていますでしょうか。

授業でこういうレポートを書いたり、班でこういう発表をしたりということが、実際、中学校の授業で行われているかどうか、教えてください。

○教育指導課長 いわゆる地域調査というようなことでいえば、形はともあれ、何らかの形式で、学校で工夫して触れているというのが状況だと思われま。

○山下委員 ありがとうございます。

○教育長 ほかによろしいでしょうか。

では、私から1点。

この資料を見させていただきますと、教科書によって取り上げている国の数が違うんですね。これは教科書採択において、特段問題がない要素なのでしょうか。

調査報告書の12ページにまとめていただいていますけれども、アジアでも、多い教科書では47か国、少ないものだと34か国なんですよ。

つまり、これが教科書採択には問題がない範囲のことなのか、またはどういう形で補っていくものなのかということです。

○社会科調査委員会委員長 調査委員会の中では、数の問題ということでは取り上げられませんでした。

○教育長 取り上げている国の数が少ないということについては、今後、2年、3年と進んでいくときに問題にはならないということで理解してよろしいでしょうか。

つまり、結構、極端に違うんですよ。北アメリカは多い教科書では23か国、少ないところだと5か国。アフリカでは54対24です。

こうすることで、今後の学習を進めていく上で問題はないという、調査委員会ではそういう話だったということですのでよいですね。

○**社会科調査委員会委員長** 調査委員会の中では、社会的事象として取り上げられた内容についてどう向き合うかということが議論の中心となりまして、取り上げる国数が多いからどうか、少ないからどうかという話題にはなりませんでした。

○**教育長** 国数が出ているということは、単なる数目で出ているのではなくて、そこにコメントがあるということでしょう。

多い教科書では、結果的に1つ1つの国についての記載が少ないかもしれないけれども、一方の教科書では全く取り上げていない国がある、それは今後の学習についても特段問題はないという理解でよろしいでしょうかということなんです。

○**教育指導課長** 記載している国数の多い少ないについては、正直申しましてなかなか難しいところがあります。

教科書の中で取り上げられていないからといっても、地図上に載っていない国というものはありませんので、そういったものを併用していくことで、子どもたちに知識として教えていくことはできます。

ただ、やはり教科書で取り上げられているほうが子どもの印象に残ることは事実でございますので、そういった面ではある程度の数が多いほうが、それは子どもの印象には残るだろうというのは、事実、想定されるところでございます。

一方で、数が多いと、どこまで書き込んでいるかという問題があります。教える側からすると、載っている以上は何か言わなければならないという感じになっていって、受け手の子どもたちからしても飽和状態になってしまうという可能性はありますので、そのあたり、バランスについては一概には言えませんが、ただ、一定程度は記載があったほうが子どもの心に残るといいでしょうか、学習の手助けになるという意味では、意義があるのではないかと考えております。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。

ほかに御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** では、次に、社会（歴史的分野）について、評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○社会科調査委員会委員長 それでは、引き続きまして、社会（歴史的分野）の教科用図書の調査の報告をいたします。

教科の目標に関しては先ほど申し上げましたので、割愛させていただきます。

歴史的分野の目標からお伝えいたします。

学習指導要領では、「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」としています。このところは、歴史的なのか地理的なのかという点で、若干、言葉の違いはありますが、ほぼ同じでございます。

そして、具体的に3つの方向が示されております。

1つ目が、我が国の歴史に大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

2つ目が、歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論したりする力を養う。

3つ目が、歴史に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現代に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚を深め、国際協調の精神を養う、といった以上の3点が示されています。

そして、この目標を達成するために学習の内容が5つ改訂されています。

1つ目が、歴史について考察する力や説明する力の育成の重視です。

2つ目は、歴史分野の学習の構造化と焦点化です。このことによって学習指導要領は大変分かりやすく、教える側にとっても整理されています。

3つ目、我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いが一層重視されたところですが、これは高等学校の地理歴史科につながるということでも重視されています。

4点目は、主権者の育成という観点です。これは18歳から選挙権が得られるということか

らも、これから大切なこととして取り上げられています。

最後は、様々な伝統や文化の学習内容の充実ということで、今回も琉球やアイヌの文化に触れていることが示されています。

共通事項として、各社共通していることは、小学校の社会科とのつながりです。先ほどの地理で申し上げましたが、解説したり、分かりやすくしたりして、表示されています。小学校の社会科で習った言葉を明記したり、平易な言葉で問いやクイズを、また解説もしたりしています。

また、子どもたちが見やすいように、目次や見出し、編や章、節、こちらのほうも分かりやすい色別の表示などもされています。

また、小集団での対話、話し合い活動が行いやすいような設定や問いもされています。

また、写真や地図、イラストについても、その大きさや鮮明さ、視覚的に興味・関心を引きつけるものが掲載されています。

また、本文を補うように、発展するように、コラムや特設コーナーなど、子どもたちの興味・関心を引くような内容が示されていました。

そして、地図帳を併用することについて。そういったものによって、学習がより深まるという可能性があるかどうか。

また、授業時数と学習内容の量からして、授業内での振り返りもさることながら、家庭での学習に取り組みやすいものになっているかということが評価の差になりました。

詳細については報告書を御覧ください。

そして、授業での教科用図書の扱いについてです。

主体的・対話的で深い学びの実現ということで、さらなる授業改善ということは当然求められているものです。

しかし、実際に授業時間は50分です。

1年生の歴史は、先ほど申し上げましたが週1時間から2時間程度。また、その裏側で地理が行われています。2年生も同じです。

3年生は、3年生の社会科自体が140時間ということになっています。実際のところでは、歴史は1学期は週3時間程度行っていて、そして残りの1時間を公民に当てている学校、または週2時間程度歴史をやっていて、残りの2時間を公民に当てている学校、または、これは授業の進度によりますが、1学期の中間までは歴史を行い、期末のあたりから公民がスタートする学校とがあるかと思います。140時間をバランスよく、2対2なのか、1対3なの

か、または公民だけで4とし、歴史はなしで行っているのかというのは、違いが出てきます。

そして、50分の中で5分ほどが導入、同じく35分から40分ぐらいが授業展開。ワークシートや話し合い活動の中に含めて振り返りに5分ほど。単元の終わりの問題解決の学習で一、二時間、大体2コマほど取れるかどうかという形で進んでおります。

本調査委員会も歴史的分野の7社について調査を行いました。A評価から順番にお伝えします。

まずは東京書籍についてです。

持続可能な社会を実現するために歴史を学ぶ。このような冒頭に始まり、この視点をもとに環境・エネルギー、防災・安全、伝統・文化、人権・平和、情報・技術といったテーマから身近な地域の歴史を特設のページで取り上げ、自分たちは何ができるか、どのようにすべきか考えていくための資料を掲載し、第1章では、調査活動に必要な基礎的・基本的な技能を身につけられるよう身近な地域の歴史を調査、まとめ、発表、振り返りというところで、ここまでのところで6ページほど、見開き3ページを分かりやすく記載しています。そして、Xチャート、Yチャート、多面的・多角的に捉える工夫というものも掲載されております。

続いて、帝国書院です。

第1部、歴史の捉え方と調べ方。第2節、歴史の調べ方、まとめ方、発表の仕方。歴史家が、見方・考え方について見開き3ページで分かりやすく記載しております。

「タイムトラベルの学習の仕方」ということで、イラストを用いて、まずその時代がどのように移り変わっていくのか。学習の全体像を見やすくするような工夫もされていて、大変理解しやすいものとなっています。

教科書の最終章は、地理的分野、歴史的分野、そして公民的分野で学習していく内容、見方・考え方を踏まえて、「未来に向けて」という視点から、「22世紀の中学生へ向けてメッセージをまとめよう」と提示して、公民分野へのつながりを示しています。

続いて、B評価の教育出版についてです。

「歴史を探ろう」などのページを中心に、様々な人物の視点から考える工夫が充実しています。

章のまとめでは、時代の移り変わりや時代の特色、時代の変化に着目し、章の接続を図りながら学習を進めることができます。

続いて、日本文教出版についてです。

本文は読みやすい平易な文章で書かれております。

文化史を扱うページを中心に、大変資料が充実しております。

話題になりましたのが、48ページのところに紺琉璃杯という正倉院の宝物が出ていますが、調査員の中から、初めて実物の大きさが分かったという声もありました。

また、声のコーナーを設け、実際にそこに住む人々の言葉を紹介し、生徒の興味・関心を高める工夫がありました。

資料活用として、デジタルマーク、QRコードも掲載されております。

続いて、C評価の山川出版についてです。

世界の情勢をイラストで分かりやすく示したページがあります。視覚的にも大変分かりやすいです。

例えば、13世紀の世界とか、8世紀の世界。順番が逆になりましたが、16世紀の世界というように、一目見てどう変わっていくのか、子どもがイメージしやすい内容が掲載されています。

また、身近な地域の調査の手法について、図版を用いながら丁寧に掲載されております。

続いて、育鵬社です。

見開きのページは、図版、挿絵、写真。大きく上段に位置し、見やすいものとなっております。

教科書本文の字数及び説明はやや少ないですが、教科書本文と関連する特設のページやコラムを掲載しております。

続いて、学び舎についてです。

時代の中心人物を含め、様々な視点から平易な表現で記載されております。

1時間当たりの学習内容が分かりやすくなっているのが特徴です。

例えば、これらの本の中からA評価をつけた帝国書院、東京書籍については、持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を多く取り上げ、検討しやすくなっていること。

続いて、身近な地域の歴史の調査に関わる項目が多く設けられ、地域の歴史に目を向けるきっかけをつくりやすくしていること。

3点目、章や節等に設定された問いを軸にした構成となっており、課題解決的な学習を行い尽くしていること。

そして、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなど、年表、写真、図版、地図、解説を含めて、教科書自体が見やすく、学習課題を生徒がイメージしやすいなどの取組がされているということでA評価をつけました。

また、B評価をつけた教育出版、日本文教出版については、印象的な写真も多く、ビジュアル的に文章との構成バランスがよく、章単元のまとめ・学習を活用することで生徒の理解を深めやすいということは話題になりました。

授業時数と学習内容の量から、授業内の振り返りもさることながら、家庭での学習の取り組みやすさ、こういったことも含めて総合的に評価して、東京書籍を推薦いたします。

以上です。

○教育長 説明は終わりました。

それでは、それぞれ御意見、御質問があればお願いいたします。

いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 特になければ、社会（公民的分野）について、評価を決定する上での議論について御説明ください。

○社会科調査委員会委員長 続いて、公民的分野の教科用図書の調査について報告いたします。

教科の目標については割愛させていただきます。

公民的分野の目標でございます。

学習指導要領では、「現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成する。」というふうに示し、具体的に3つの方向を上げています。

1つ目、個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

2つ目、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連づけて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断する力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

3点目、現代の社会事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会的に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互

に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める、というふうにしております。

この内容を達成するために6つの改訂がされています。

1つ目が、現代社会の特色、文化の継承と創造の意義に関する学習の一層の重視。

2つ目が、現代社会を捉える枠組みを養う学習の一層の充実。

3つ目が、現代社会の見方・考え方を働かせる学習の一層の充実。

4点目が、社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察、構想したりする学習の重視。

5点目が、国家間の相互の主権の尊重と協力、国家主権、国連における持続可能な開発のための取組に関する学習の重視。

最後が、課題の探求を通じて、社会の形成に参画する態度を養うことを一層重視するという6点の改訂がされています。

各社共通していることについて、調査委員会の中では、単元のまとめに小集団での対話的な学習が行いやすい設定がされている。また、編、章単元の終わりに振り返りやまとめがしやす設定がされている。写真や地図、イラストには大きさや鮮明さ、視覚的に興味、関心を引きつけるものが掲載されている。コラムや特設コーナーは教科書本文を補う興味・関心を引きつけるような内容となっている。また、高校との新科目に接続を見据えた記述が設けられているということが共通しているところです。

続いて、授業と教科用図書の扱いについてですが、こちらも主体的、対話的深い学びというところで、子どもたちの話し合い活動がどのように行われるか、また、それをどのようにまとめ、発表することができるか。

しかし、授業時間がやはり50分です。授業の中での50分の扱いも地理、歴史と変わりありません。

そこで調査委員会は、公民的分野に関して6社の調査を行い、次のように報告いたします。A評価から順番にお伝えします。

まずは、東京書籍についてです。

持続可能な社会を実現に向けてのために公民を学ぶ、こういうことを冒頭に掲げております。

持続可能な社会の実現のために解決すべき身近な課題を多く取り上げ、公民を捉えるための写真、その他解説、または挿絵、資料等に工夫が充実されています。

例えば、導入の活動。T市の町の様子から現代社会を眺めてみよう。また、その分析として、Yチャートを載せています。

公民を学ぶ視点をもとに、環境、エネルギー、防災・安全、伝統・文化、人権・平和、情報・技術といったテーマから、自分の就きたい職業を考え、その職業を通じて、自分たちは何ができるか、どのようにすべきか、一貫した主題を最終章においてアクションプランの形でレポートにするというふうにしています。

続いて、帝国書院です。

第1部より部の導入に、「学習の前に」というものを設け、イラストを用いて、時代の移り変わりや言葉の比較により、これからの学習の見通し立てやすくする工夫があります。例えば、1・2ページに、40年前と今の社会を比較してみよう、というものがあります。

続いて、「先輩たちからの選択」というコーナーがあり、課題への具体的な取組と興味・関心を引くような内容を掲載しています。例えば、フェアトレード、洪水による被害を予測したハザードマップづくりなどが紹介されていました。

最終章では、地理的分野、歴史的分野、そして公民的分野で学習してきた内容や見方・考え方を踏まえて、持続可能な社会の形成という視点から解決すべき課題についてレポートを作成する。そのレポートの丁寧な手順と説明、論述の組み立て方が分かりやすく掲載されていました。

続いて、B評価です。

教育出版についてです。

学習の見通しを立てやすいように各章の導入として、見開きで「第〇章の学習のはじめに」というふうに設けています。例えば、第1章では私たちの暮らしと現代社会。

章のまとめでは、全体テーマに沿った他者との会話をするキャラクターの吹き出しにせりふを入れ、そこで新しい視点に気づかせ、提言し、まとめをさせています。

また、言葉で伝え合おうなどのページを中心にまとめたことを学校の外へ発信する考えの工夫が充実しています。例えば、新聞へ投稿しよう、自治体へ提案をしてみようということで、この社会との関わりを強調しています。

次に、日本文教出版についてです。

巻頭の国際社会共通の目標としてのSDGsを大きく紹介し、持続可能な社会をつくるための見せ方を工夫しています。

また、生徒にとって身近な生活の中で見かけるものや、町なかで見かける社会事象を写真

やキャラクターによる会話、挿絵を使用し、親しみやすい教科書として印象を与えています。

最終編では、レポート作成やプレゼンテーションソフトを使用したまとめ方へとつなげています。

A評価をつけた帝国書院、東京書籍については、持続可能な社会の実現のための解決の課題を多く取り上げ、検討しやすくなっていること。また、身近な話題を取り上げ、社会事象に目を向ける、そのきっかけとして、写真、図版、地図、解説を含めて教科書自体が見やすく、学習課題を生徒がイメージしやすいようにしていること。

続いて、章、節等に設定された問いを軸にした構成となっており、課題解決的な学習を行いやすくなっていること。

最後に、課題の探求等を通じて、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論したりということでも扱いやすくなっていることを評価しています。

そして、B評価をつけた教育出版、日本文教出版については、印象的な写真も多く、ビジュアル的に文章との構成バランスもよく、小単元のまとめ学習を活用することで生徒の理解も深めやすいつくりとなっていました。

それぞれ工夫された教科用図書でしたが、調査委員会としては、社会事象について考察する力や説明する力の育成の一層の重視というところから、小集団で対話的な学習が深まること、また、分かりやすくまとめること、説明・発表できること、こちらの学習課題を生徒がイメージしやすい、この部分を総合的に評価し、東京書籍を推薦いたします。

以上です。

○教育長 説明は終わりました。

御質問があればお願いいたします。いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 よろしいでしょうか。

よろしければ、次に、地図について、評価を決定する上での主な議論について御説明ください。

○社会科調査委員会委員長 続いて、地図について調査委員会の報告をいたします。

地図は2社でして、地理の教科書と合わせた使い方という視点で見えておりました。

正直なところ、どちらもほぼ差がなく、東書のほうが若干内容の選択の部分でB評価がついておりますが、主に次のように報告いたします。

帝国書院について。

総合的な意見ということで、教科書と関連した資料の提示が多く、学習の内容を深めやすい構成になっています。

サイズが大きいため見やすく、地図中から地名を探しやすいこと。統計資料が非常に活用しやすいこと。ICTを授業中に活用し、QRコードより情報を収集しやすいこと。

また、ほとんどの生徒においてはスマートフォン等を持っているために、タブレットやスマートフォンといった機器で手軽に情報を収集しやすく、家庭学習が進めやすいということで話が出ていました。

続いて、東京書籍です。

地理的分野の教科書の内容について興味・関心が高められるような資料が多いこと。特に、表記表現の中で、世界の州、日本各地方の鳥瞰図ということで海底の地形も載っていることで、地球上における海と陸の構成が正しく理解できるのではないかと。

また、教科書とほぼ同じ大きさのところから、机の上に置いても扱いやすいという点が上がっております。

これらの点から、調査委員会としては帝国書院を推薦いたします。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問があればお願いいたします。よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 よろしければ、次に、英語について、評価を決定する上での議論等についての御説明をお願いいたします。

○英語科調査委員会委員長 外国語科英語調査委員長の牛込第一中学校長、福田忠春でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、外国語科の目標についてです。

来年度、中学校において全面実施される学習指導要領において、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」の3つの柱で各教科の目標や内容が再整理されたことを受け、外国語科の目標も、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」と設定され、先ほどの3つ

の柱に沿い、(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う、と具体的に示されました。

この目標につきましては、各学校段階の学びを接続させるとともに、外国語を使って何ができるようになるかを明確にするという観点から、改善、充実が図られております。

次に、学習内容の改善・充実についてでございますが、これまでの聞く、話す、読む、書くの4技能4領域に話すこと、やり取りの領域が設定され、5、文法事項などと具体的な使用場面を関連づけて指導し、対話的な言語活動の一層の重視を図っております。

また、取り扱う語数ですが、小学校で学習する600から700語に加え、現行の1,200語程度から1,600から1,800語程度と大幅に増加しております。そして、文、文構造、文法事項につきましては、表現をより適切でより豊かにすることなどを目的に、感嘆文のうちの基本的なものや、現在完了進行形など、数項目が追加されております。

外国語科英語調査委員会では、こうした改訂の要点を踏まえて作成された6社の教科用図書について、調査研究を行いました。

調査研究の対象となる教科用図書は全て文部科学省の検定を経ているものであり不的確なものはございませんが、新宿区立中学校で学ぶ子どもたちに適しているものはどれであるのか、各社の教科用図書の特徴について調査研究を進めてまいりました。

それでは、A評価を付したのものから順にお伝えいたします。

A評価は、東京書籍です。

1年生では、入学から夏休みまでの期間をかけて、小学校と中学校を丁寧につなぐ工夫がされており、また、小学校で学習した要素は全て含まれたものとなっており、小・中接続の充実が図られております。全学年を通して幅広い題材を扱っており、SDGsに関する題材等において生徒に地球規模の考え方を育むことができます。

各単元にプレビューのページが設けられており、文法の目的、場面、状況を表す音と映像

を見て、生徒の気づきを促す構成となっております。

全体を通して、概要、大意をつかみ、詳細を押さえ、表現につなげる3段読みの構成となっており、読みを発信につなげる指導を効果的に行うことができます。

巻頭で把握した目標を巻末の「Can-doリスト」で振り返り、技能が身についたかどうか、自己評価できるようになっております。

QRコードについては、単語や本文の音声や動画等を個々に再生できるようになっており、使い勝手がよく、家庭学習においても大変有効なツールとなるものと考えます。

新宿の子どもたちの深い学びにつながる使いやすい教科用図書であると考えます。

続きまして、B評価といたしました4社です。

初めに、開隆堂です。

1年生では身近な話題を、3年生では社会的な話題と扱う内容の難易度を段階的に上げていく工夫がされております。

新出表現の導入が漫画形式で示されており、文字が読めなくても、イラストや音声を頼りに内容が推測できる配慮がされております。

扱う順番を変えるなど柔軟なカリキュラムを構成でき、多様な生徒に配慮された教科用図書であると考えます。

次に、三省堂です。

クールジャパンを代表する漫画やアニメが取り上げられており、日本の文化を通した英語の学習ができます。

実際の出来事に関する写真が使用されており、リアリティーのあるつくりとなっております。

知らない単語に出会ったときにどうするかなど、学び方を学ぶことができるページがあり、自立的学習を促す教科用図書であると考えます。

次に、光村です。

全体的に生徒がなじみやすい話題が選ばれており、また、実際に海外に行くことを想定した内容が多く扱われております。

インプットやアウトプットといった学びのステップを意識したつくりとなっており、生徒が無理なく言語材料を学ぶことができるようになっております。

様々な背景を持つ中学生が成長していくストーリーが展開されており、生徒が楽しんで取り組むことができる教科用図書であると考えます。

次に、啓林館です。

日本や世界で今起きている現実的な話題や科学など、他教科との関連を図った題材が扱われております。

ユニットを構成するパートには、身につけるべき基礎的な学習内容が一目で分かる工夫がされております。

様々な国のキャラクターが設定されており、実際の場面を想起しながら学習を進める工夫がされており、英語話者の広がりや多様性が実感できる教科用図書であると考えます。

最後に、C評価といたしました教育出版です。

SDGsの達成を目指して、地球や人々のために自分たちが何をすべきかを考えることのできる題材が多く扱われております。ゲーム感覚で発話を引き出すスピーキング活動に活用できる活動用カードは、簡単に切り離して使うことができる有効なツールであり、また、附属の赤色マスキングシートは重要語句の自主学習等に効果的であり、巻末を中心に有効なツールを有する教科用図書であると考えます。

各社に共通する特徴といたしましては、QRコードの充実が挙げられます。

A評価を付した東京書籍では、細かく配置されており、必要なものを個々に再生することができるようになっております。

また、三省堂では、QRコードを見開きに1つ配置し、音声やデジタルコンテンツを再生することができます。

その他の発行社につきましても、それぞれの考え方に基きましてQRコードの工夫がされておりました。

それぞれ工夫された教科用図書ではありましたが、外国語科英語調査委員会といたしましては、円滑な小・中接続に資する工夫、プレビューや3度読みといった構成上の工夫、QRコードの使い勝手のよさ等を相互的に評価し、東京書籍を推薦いたします。

以上でございます。

○教育長 ありがとうございます。

説明が終わりました。

御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

○羽原委員 小学校5、6年生は、今年度から教科になって、かなり力を入れていくことになるけれども、この接続ですね。つまり、小学校から中学校への接続が、教科書というよりは教育現場、教室がうまくつながっていくかどうか。これが実務的に大事だと思います。

僕らも小学校の学校訪問で結構英語の授業も見せてもらっているんですが、かなり学校によって質が違う。授業にはかなりALTが入ってはいるけれども、頻度は少ないし、学校によってレベルの格差があって、いよいよその子どもたち、つまり6年生が中学校へ入ってくる。そうすると、入ってくる子どもたちに英語の力の差が結構あると思うんですね。

今までのやり方を継続しているんだと言うけれども、子どもの実態からすると、なかなかジョイントしにくい部分が出ると思うんですね。

これは英語の先生へのお願いですが、小学校の英語の授業ぶりというものを、牛込一中ならば市谷小とか、愛日小とか、生徒が入ってくる小学校の英語の授業の現場というものを何回かのぞいてみて、その格差というものを感知してもらいたい。これは要望として、そのところを今から工夫していただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

○坂元教科用図書審議委員会委員 今、委員からお話がありましたとおり、今年度より小学校5、6年生において外国語英語が必修になっております。それを受けて、小学校で学んできた学習内容は、学校や子どもによってある程度差があるということは念頭に置かなければいけないと感じているところです。

英語が得意な子どもとそうでない子どもが二極化しないように、中学校でも生徒同士が教え合う場面や活動は取り入れていかなければならないと思っております。

今回の英語の教科書の中でも、即興で会話する活動であるとか、ロールプレイング、あるいはスキットといったものもかなり取り上げておりますので、その中で英語教育の充実を図るとともに、御指摘のあった二極化を生まないような指導を行っていきたいと思っております。

○教育長 ほかに何か御質問等ございますでしょうか。いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 それでは、御質問がないようであれば、種目ごとの指導要領の中での目標、教科の特性等、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについての質疑を終了いたします。

続いて、教科用図書審議委員会からの調査結果について、審議委員会委員から種目ごとに説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行います。

それでは、社会（地理的分野）について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いします。

○池田教科用図書審議委員会委員 社会（地理的分野）についての審議、検討内容の説明を行

います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価が多かったのは帝国で、10校中9校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果といたしましては、東書、そして帝国が総合評価でAでございました。

審議委員会としては、東書、帝国ともにA評価といたしました。

その理由、意見等として、東書は文字、写真等のバランス構成がよく、学習する視点が明確であること。地理学習の基礎的・基本的技能を身につけるための工夫があること。

帝国に関しましては、生徒の興味・関心を引く写真や図版が多く、生徒が主体的な学びを行う上で有効な工夫があること。また、SDGsと関連づけた題材や対話的な展開が期待できる工夫などが見られることなどが意見として上がりました。

審議委員会では、他社に関する意見として、教出、写真、図版が精選され、バランスよくまとまっているなどがよい点として上げられました。

最終的に審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、資料活用の技能を育み、様々な工夫が仕掛けられていることから、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった帝国を審議委員会としては推薦いたします。

社会（地理的分野）は、以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。御質問がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

もしも御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見をお伺いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

まず、山下委員、お願いいたします。

○**山下委員** 結論から申し上げますと、審議委員会さんが審議されたとおり、私は帝国書院のものがよいかと思っています。

地図との関連ということも話には出てきましたが、純粋に教科書だけでいろいろ御指摘されたところを見てみました。

第1に、私は主に東京書籍と帝国書院を比較して見たんですが、どちらもすごく図版も上手に使われているというふうに思いました。

ただ、若干違いがあるなと思ったのが、まとめの持っていく方なんですけれども、帝国書院のほうが子ども目線で書かれているのかなと思いました。

あと、若干ですが、写真がすごくきれいで鮮やかなんですよね。これが授業でどうかということは別にして、見ていてすごく明るいというか、勉強しようというか、そういう気持ちになれるなというふうに思いました。

最後に、地域のあり方についてというところを比較してみたんですけども、東京書籍がどちらかという広くいろいろなテーマを扱う、いろいろなパターンでまとめていくというのに対して、帝国書院は非常に深く書かれている。これを子どもたちが学んでいくときに、どういうふうに進めていくんだろうと考えたときに、1つをきちんと掘り下げていって書かれているほうが分かりやすいのかなと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

続いて羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 僕は結論から言うと、東書がいいと思います。

これまで何回か教科書の採択のときに、帝国の歴史的な地図の扱い方に傾斜していたというか、帝国はいいんだというような思い込みみたいなものが若干あったかなという感じがして、今度の教科書を見ていて、目を開いたということです。それで、東書を選びます。

その理由を申し上げます。

SDGsの先ほどの説明、どのような論議であったかということがあまり示されなかったので、位置づけがどうなのか分からないのですが、この地図とか地理とかで、一つの深い学びという観点からすると、SDGsの17項目は問題点をよく洗っていると思うんですね。

帝国のほうは、どちらかという従来どおりに地理を学ぶ、地図を学ぶ、世界を学ぶという、平たんというか、平板な取組が多く、記述もそういうような面が多い。

しかし、そうではなくて、深い学び。つまり、この島国である日本人が子どものときから世界に目を開く。今、ブレーキがかかっているオリンピックの問題にしても、各学校が数校ずつの地域に振り分けられて勉強するというのは、まさにグローバルな感覚を持つと。深い学びにつなげるという意図がオリンピック教育にはあると思うんです。

ということですので、地図と一緒に論じられないから、後でまた具体例を言いますが、東書で見ても、例えば地球温暖化の問題、あるいは気象変動の問題、こういうものは地図とかで学んでいく。まさに現時点で地球に起こっている諸問題に触れるというか、接点を持つ。このことが、まさにこの授業の眼目だと思うんですね。

戦乱でいえば、宗教とか民族の問題もSDGsの視点で学べる。人種についても、差別と

いう観点が学べる。領土についても、戦争ということが学べる。あるいは、資源については豊さと貧困。この公益は国力という問題があるが、交流によって国際機関がいろいろサポートしながら地球上の平均的な姿をつくらうとしている。あるいは、人口にしても過密の問題、日本の労働力の問題とか、そういう過密と過疎の国際状況というものが、単に人口のグラフを見るのではなくて、このSDGsの視点から見ると、非常に深く考えさせられるところがあるという意味で、SDGsでしばらく授業を進めて、深く接触しながら考える。このことが必要じゃないかと思うんですね。

つまり、帝国の知るという観点が、知識を得るということが中心だとすれば、もう一步深く考えると、東書の考える素材を手にするという視点のほうが必要であろうと。

中学校教科用図書調査報告書の社会（地理的分野）で、東書がBであるところの内容について、帝国の評価の中に「身近な地域の調査では、新宿区に隣接する練馬区を事例に取り上げるなど、新宿区の特色を生かした授業が展開しやすい。」というのが、内容のAの事由に上げられている。

僕も長く新宿区に住みついています。新宿区民にとって練馬区が隣接地帯だということだけでも、練馬区の性格と新宿区の性格は相当違うんですね。そこがAの理由に挙げられるというのが、非常に違和感がある。僕は必ずしも、新宿区が取り上げられている教科書だからいいという視点は持たないんですが、ただ、練馬区のことを取り上げられているから新宿区の教科書に合うという理由は成り立たないんじゃないかと思います。僕は長年ここに住んでいて、練馬区との対比で物を教わったり考えたりしたことはほとんどないです。

ということで、それがAとBとに分かれている理由の一つだとすれば、これは妥当じゃない。別の理由でBならBでもいいが、こういう事情説明では、4Aの帝国、3A1Bの東書の対比はおかしいと言わざるを得ません。

地理とか、社会という授業は、社会事象に向き合う、その第一歩みたいなものだと思うんですね。ですから、地球上にこういう大きな問題があるよということをこの小さな島国で考え、触れていく。諸問題がここに、このように存在しているということは、地理とか地図で学んでいくことが一番必要であって、そのSDGsの取り上げ方がマッチングしており、その観点が東書が望ましい。

一方で、帝国書院のほうも、冒頭には記載があるんです。だから、その姿勢はあるわけです。あるけれども、小さい文字で分かりにくい。つまり、冒頭に上げるなら中で分かりやすい17項目の明記があるべきだし、それから、東書でいいますと、55ページですね。これ

は絵柄が小さいですが、ちゃんと項目が書いてある。まさにこの17項目が地球上で今、人間たちが立ち向かっている問題で、ほぼ網羅されていると思うんですね。

ですから、その視点をきちんと押さえて教科書が編さんされている。これは後でまた地図のときに申し上げたいと思いますが、そういう意味で、帝国がいいという半ば常識化したようなところを、もう少し深い学びという視点で捉え直すと、僕は東書を選ばざるを得ないということであります。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

星野委員、お願いいたします。

○星野委員 地理という学習のさわりですね。それを考えた場合に、東京書籍は見開きというか、裏表紙が世界遺産なんですね。世界遺産をこの地理という分野で扱わなければいけないかどうかは別として、勉強を始めるに当たって、この世界遺産というのが最初に出てくるとするのは、子どもにとってはとても興味を引くのではないかなと思います。

それに比べて、帝国と東書とを見比べたんですけれども、いきなりSDGsのことを出しているのはいいんですけれども、中学生にいきなりSDGsですよと示しても、きっと理解し切れない部分があると思うんですね。

その点、東書の場合は、1ページめくりますと、SDGsに通じる部分がありまして、17項目ではないですけれども、10項目ぐらい書いてあって、その説明があるという点では、子どもにとってSDGsへの入りやすさという点では、僕は東書のほうがいいのかと思いました。

各教科書にあることなんですけれども、見開きごとに学習の課題で始まりまして、見開きの終わりに、東書ですと「チェック&トライ」。帝国だと「確認しよう」、「説明しよう」と、見開きごとにまとめがあることに関しては両方とも使いやすいなと思いました。

また、発展部分というんでしょうか、東書ですと「スキル・アップ」、帝国ですと技能を磨くという点ですが、正直言って、帝国のほうがとても分かりやすいというか、簡単過ぎるぐらいのことなんですね。正直、新宿区の生徒たちは社会が苦手な部類に入っていますので、簡単なほうがいいかなと思いました。

ただ、東書の「スキル・アップ」の中でも、地形図の解説に関してはとても分かりやすいので、これはちょっと捨て難いなという部分もあります。

先ほども少し触れましたけれども、SDGsに関しましては、東京書籍ですと「地理にア

クセス」、帝国書院ですと随所に未来に向けてという形で問題提示がされていますので、その辺についてはいいかなと思いました。

それぞれいいところがあるので、正直困っているんですが、学校現場の使いやすさを考えると帝国書院かなという結論に達しました。

○教育長 ありがとうございます。

では、古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も結論としては帝国です。

ただ、今回、私は教科書採択は2回目になるんですけれども、前回の地理とか地図で帝国を選んだときとはかなり違いました。

羽原委員のおっしゃっていることと全く同じというわけではないんですけれども、地図は帝国、地理は帝国というイメージがないといたら、それはうそになります。

それで、今回はもう一度ちゃんと見てみようという気持ちで見たんですけれども、帝国のほうは安定はしているんですけれども、東書のほうは、私自身すごく面白いと思ったのは、SDGsに関してというよりは、むしろ歴史とか公民とかとの関連性があるって、もしかしたら同じ教科書のほうが子どもたちも勉強しやすいんじゃないのかなと思ったところがありました。

形式面とかでも、「チェック&トライ」とか、同じような形で、同じように社会を勉強できるという意味では東書にしようかなというところもすごくあったんですけれども、かといって帝国が悪いというわけでも全くなくて、最終的に、すごく悩みましたけれども、現時点では、少なくとも調査委員会も学校調査も審議委員会も一番推している帝国を否定して東書にするというところまでの自信はないというところです。

ただ、今度の教科書採択のときにはどうなるかなと、もしかしたらひっくり返るかもしれないなど。そのときにはもういないかもしれないんですけれども、違う意見を言うかもしれないなどと思いながら、悩みました。

それから、先ほど羽原委員から練馬の話が出たんですけれども、私は練馬のことを調査委員会が評価されたことは悪いと思っていなくて、東書は高知を題材にされていたんですけれども、帝国のほうに練馬で、関越だとか東京外環道だとか、身近なところが出てきていると、それはそれで見やすいのかなというところ。また、帝国はターミナル駅の新宿という形で詳しく載っていたりしていたので、それが決め手というわけではないけれども、最終的にどちらでも同じぐらいよくて、そして先生方の意見が帝国ということでした。どちらかといえば、

身近なところが出ているから、最終的にはそれで帝国でいいのかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

それでは今野委員、お願いいたします。

○今野委員 帝国も東書も非常に内容が優れていると思いますし、全体の評価も僅差で、最終的にはどちらでもいいのかなと思ながら、最終的に審議委員会、あるいは学校、調査委員会が、それぞれ帝国ということでしたので、私も帝国を中心にしてみました。東書と比べながら見てみましたが、最終的には帝国がいいかなと思いました。

教科書の中で技能を磨くというコーナーがずっと継続的に続いていくんですけども、地図帳の索引の引き方、世界や日本の略地図の書き方、写真があってそこからどう読み取るか、グラフの作り方、調査ノートの作り方ということがずっと各項目にあって、これは地理の基礎的な力を子どもたちに養うのにとってもいいものじゃないかなと思いました。

それから、地理プラスというコラムみたいなものがあるんですけども、これもとても面白い内容で、子どもたちを引きつける。興味を持って、自分なりに深く学んでいこうというときの道しるべに十分なるなというふうに思いました。

今、話にも出ましたが、新宿のことが書かれてあるから選ぶというわけでもないんですけども、子どもたちにはやはり新宿のことが出てくると興味を一層引くだろうなと思います。そうした意味では、都庁所在地が新宿区ではなくてなぜ東京なのかとかいうこともありましたし、副都心ターミナルというところで写真つきで詳しく出てきますので、そんなところもプラス材料にはなるかなと思いました。

東書のほうも、記述も資料もとてもしっかりしていて、とてもバランスがよくて読みやすい、学習しやすい教科書だなと思いました。

特に、個人的には、学習の中で世界から始まって地域までいくわけですけども、東書のほうは日本のところが始まる前に地域調査の手法というのを先にやるんですよ。ほかの教科書では一番最後に出ているんですけども、地形図の読み取り、野外調査、聞き取り調査、図表作成、考察、まとめ、発表とかあって、かなり詳しく出ていていいなと。

それが3章の日本の冒頭のところで出てくるので、そうした能動的な気持ちを植え付けるような手法をあらかじめきちんと学習しておく、その後の日本の諸地域を勉強するのにとても能動的な気持ちで勉強できるんじゃないかなと。一番後ろに載っている教科書が多いんですけども、ここは先に出したというところは、とてもいいんじゃないかなと、そんな印象を受けました。

いずれにしても帝国という結論にしました。

○教育長 ありがとうございました。

私も帝国にしたいと思います。

幾つか見比べてみたんですけれども、例えば帝国書院の56ページのところには、最も近い国、隣国韓国というページが見開きであるんですよね。東京書籍のほうは、東南アジアというくくりみたいな話ですし、アフリカのところを見ると、モノカルチャー経済の課題というような形で、将来的にもつながるような話が89ページに出ています。また、その上のコラムにフェアトレードの話が入っていたり、ブラジルのアマゾンのところでは、伐採が進んで大変なことになっていますよという話なんだけれども、東京書籍だと焼き畑農業でうまくリサイクルが済んでいますよという記述がされているんですよね。

そういうところも含めて、具体的などころで様々な部分に触れているというようなことも含めて、また、学校調査、調査委員会調査等々の結果も含めまして、帝国書院にしたいと思います。

それでは、他に御意見がなければ採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行いたいと思います。

社会（地理的分野）については、一つは帝国書院発行の教科用図書、もう一つは東京書籍発行の教科用図書が優れているという御意見であったと思います。

この2社を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

それでは、2時間たちますので、ここで一旦10分程度、休憩を入れたいと思います。

○山下委員 1点だけ質問をいいですか。

○教育長 はい、どうぞ。

○山下委員 地理の採択で1点だけ分からないところがあったんですけれども、歴史と公民では東書の下にある「チェック&トライ」というのが非常に高く評価されていたんですけれども、地理については、ここの話というのは出てきましたか。

○池田教科用図書審議委員会委員 調査委員会や審議委員会では特段発言はありませんでした。

○山下委員 はい、分かりました。ありがとうございます。

○教育長 では、休憩とさせていただきます。15時40分まで休憩といたします。

午後 3時26分休憩

午後 3時40分再開

○教育長 それでは、引き続き、社会（歴史的分野）について、教科用図書審議委員会ではどのような審議が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○池田教科用図書審議委員会委員 社会（歴史的分野）についての審議・検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価が多かったのは東書と教出で、10校中6校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果では、東書、そして帝国が総合評価でAでございました。

審議委員会では、東書、帝国共にA評価といたしました。その理由、意見等として、東書は写真や図版が適切に配置され、巻末の用語解説が丁寧であること、文中の略年表の工夫や資料の多さ、文中の記述の詳細さなどが優れているということが理由として上げられました。帝国につきましては、家庭学習においてもQRコードの活用が有効な教科書であること、タイムトラベルのコーナーなど、生徒自身がその時代に立ち返り、学習を進めることができるなどの工夫があることなどが理由として上がりました。

また、審議委員会では、他社に関する意見等として、教出、歴史資料が充実しており、多様な授業展開が期待できるなどがよい点として上げられました。

最終的に審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、小・中の接続を意識した課題の設定や、対話的な学習場面を設定するための工夫などがある。こうしたことから、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東京書籍を審議委員会としては推薦いたします。

社会（歴史的分野）は、以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

それでは、御質問等あればお願いいたします。いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 よろしければ、採択にふさわしい教科用図書について、各委員の御意見をお伺いしたいと思います。

それでは、羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 結論から言いますと、東書がいいと思います。

その理由を幾つか拾いますと、年表の折り込みで事実上6ページ分。これは切り取ってでも使える。帝国のほうは、教科書の単元がありますが、年表は単元に沿わず、年代に沿うわ

けですから、切り取ってでも使える東書がいいなと思いました。

それから、年表だけでいえば、帝国よりは教出のほうがいいかなと思いますが、年表の使い方にもよりますが、割に細密なほうがいいので、東書がいいかなと思いました。

それから、最後の用語解説。これは、歴史にはなじみにくいところも若干ある。つまり、基礎知識がない段階で入っていく可能性があるから、用語解説が多いほうがいい。東書は6ページ分を取っています。

また、もっと歴史というところで、エネルギーとか、琉球とか、神話とか、8コマぐらい今につながるような特集を持っている。これもいいと思います。

それに対して、帝国もいいんです。

用語解説。分かりにくい用語解説というところで、60コマぐらいのものになっている。ちょっと粗いかなと思いますが、これは丹念に教科の部分で触れているので、これも分かりやすいと思うんですね。

それから、「歴史を探ろう」という12のテーマを掲げている。これもいいと思いましたが、どちらか併せて考えると思ったら、歴史と用語解説を比べると、用語解説の表記の内容なんかを見ても、東書のほうが分かりやすいかなと思いました。

それから、索引も東書は6ページ、帝国が、大きいページですが、5ページ。索引は多いほうがいいし、それから、資料についても東書のほうが見やすいというところ。

それから、最後に1つだけ触れたいのは、東書の234ページに真珠湾の攻撃があります。ちゃんと「奇襲攻撃」という表現で書いてある。しかし、帝国のほうは「攻撃した」という。つまり、これは歴史的に「奇襲攻撃」という言葉がどういう意味を持つかということは、歴史の中では貴重な記述であるから、これを単に「攻撃」という表現じゃなくて、奥行きのある部分を示すには「奇襲攻撃」という言葉で書くべきだと思っています。単純なことではありますが、以上のことで東書がいいと思います。

総体的に、中学はまだ歴史を学ぶという段階かもしれないけれども、「歴史を学ぶ」先に「歴史に学ぶ」という視点が入ってこなければいけないわけで、その導入部が歴史を学ぶというこの教科書だとすれば、高校に行ったら歴史に学ぶという方向へ進まなければいけない。だから、この歴史の教科書というのは、割に今後の広がりというものを踏まえられるような教科書がいいと僕は考えます。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

次に星野委員、お願いいたします。

○星野委員 私は、結論的には東書を選ばせていただきました。

まず、先ほどの地理のときでも申したんですけれども、裏表紙に文化財とか国宝が載って
いまして、歴史を学ぶんだなという意気込みが感じられる裏表紙でした。

その他、全体に写真がほかの教科書に比べてきれいというか、解像度が高いというか、細
かいところまで見える写真が多いので、写真に関しては東書が一番きれいかなと思いました。

一応、比較対象としては帝国と、今使われている教出ですか、それを見ながら検討した
んですけれども、対話を促す項目として、東書では「みんなでチャレンジ」、帝国だと「未
来に向けて」等々があるんですけれども、東書が一番分かりやすいというか、簡単だというか、
ちょっと帝国の内容は難しいかなと。教出は探したんですけれども、なかったので、どう
かなと思いました。

また、QRコードの内容を見てみたんですけれども、東書の場合は、基礎のまとめという
問題集が後ろのほうについていて、その答えがどこにもないんですね。先生の指導書には入
っているのかもしれないんですけれども、個人でやるにはちょっと難しいかな、大変かな
と思ったんですけれども、QRコード内に練習問題が入ってまして、その使い勝手はとて
もいいなと思いました。帝国の場合は章の学習の振り返りの答えがあるんですけれども、
その辺の違いがありました。

年表に関しましては、東書が一番見やすいかなと判断しました。

その辺から、東書がいいかなと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も結論的には東書です。

調査委員会も、それから学校調査も、審議委員会も一致しているというところで、特に学
校調査で現在使っていないにもかかわらず、現在使っている教出と同じだけの評価がなされ
ているということは、やはり使いやすいというふうに先生方も思われたんだろうなと思
いました。

私自身もいろいろ読んでみて、東書のほうが、地理のときもお話ししたんですけれども、
地理とか歴史とか公民とか、何となく教科書が横断的になっているのかなと、使いやすい
のではないかな、勉強しやすいのではないのかなと思いました。

「みんなでチャレンジ」ですとか、資料からもっととか、結構工夫されているので、そう
いったところも面白いかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、今野委員、お願いいたします。

○今野委員 私も東京書籍が一番いいと思いました。審議委員会等の意見と同じになっており
ます。

東書のここがいいなと思う点を幾つか挙げてみます。

直接資料からいろいろ読み取ろうというのがすごくはっきり出ておりまして、例えば、52
ページ、53ページで絵巻物の中からどんな人がいて、何をしているのかというのを読み取っ
てみましょう、とあります。それから、138ページでは、浮世絵から当時の人々の生活の意
識を捉えようということで、探求的な学習にふさわしい資料が結構いろいろある。

それから、「みんなでチャレンジ」ですね。大名の配列で政権の意思を推察しようとい
うのが115ページにありますけれども、こういうのも歴史的事象、あるいはそれを示した
図表から当時の状況を推察するというので、歴史の面白さを味わえると思います。

それから、大きな流れの歴史とともに、ところどころに、地域の歴史を調べましようとい
うことで、身近なところから歴史へのアプローチを行うというのが、歴史の学習を身近に引
きつけるものとしてはいいなと思いました。

関連資料が非常に豊富に載せられておりますし、全体的にも文章、項目ごとに整理されて
バランスがいい感じがいたしました。

ということで、東書でございます。

○教育長 それでは、山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私も結論から言うと東書です。

皆さんおっしゃったとおり、写真がきれいだとか、そういうのはあります。

細かいところ、例えば89ページのびょうぶ絵から読み解くようなところも、これは多分洛
洛の上杉本だと思うんですけども、こちらも、例えばここにはいろいろな市井の人たちが
いるのをみんなで見つけてみようと、非常に興味をそそる内容になっていたりとか、141
ページ、もっと歴史のページでいうと、アイヌ文化ですね。ほかの教科書はさらりと扱って
いるところが多いんですけども、ここはアイヌの文化がどういうところであったのかとい
うことがしっかりと書かれているなというふうに思いました。

ここまでしっかりと書かれているので、本来ならばもう少し、東書に書かれていた松浦武四

郎などがもっと出ていてもいいのかなと思いながら見ていました。歴史のコーナーは、とても面白くて、いろいろな観点で書かれていていいなと思いました。

領土問題についても書かれていて、180ページです。ここはかなりしっかり領土問題について問題提起をされているなと思って見ました。北方領土、竹島、尖閣諸島等、かなり細かく書かれているのでよいかなというふうに思いました。

歴史の最後は、震災の内容などもしっかり書かれていて、今後、どういうふうに災害と闘っていくのかというのもすごくよくまとまっていて、いい教科書だなと思いました。

また、帝国書院を眺めていて、こちらも非常にしっかりまとまっていて、特に学習課題を先に提示されているので分かりよいなというふうに見ていました。

一つすごいなと思ったのが、230ページの母性保護論争。これを中学生でやるとなると相当議論が白熱して、先生は大変かなというふうに思いました。

また、タイムトラベルのコーナーがすごくいいなと思って見ていました。実際に歴史というのは文字や絵でしか残っていないところを、子どもたちがその当時に行って、実際にどういうところだったのかを考えさせるというのはいいと思いました。文字からだけだと、意外と子どもたちが頭に描ける風景というのはすごく乏しいんですね。特に色の表現だとか、大きさの表現というのはすごく分かりにくいんですけども、こうやって大きな絵で描かれていると、その当時のイメージがすごくつきやすいかなと思いました。

いろいろ鑑みまして、非常に悩んだんですけども、東京書籍がいいかなと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

私も結論から言うと東京書籍がいいと思いました。

年表が分かりいいですし、資料の説明の分かりやすさや、分量もなかなかよくできているし、皆さんがおっしゃっていた、もっと歴史というところは、この見開きでいろいろなことを勉強できるかなと思いました。

調査委員会も学校も審議委員会も東書ということでございますので、私も東書にしたいと思います。

それでは、社会（歴史的分野）については東京書籍発行の教科用図書を採択の対象とする教科用図書とするということでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。

次に、社会（公民的分野）について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○池田教科用図書審議委員会委員 社会（公民的分野）についての審議・検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは東書で、10校中7校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果は、東書、帝国が共に総合評価でAでした。

審議委員会では、東書、帝国共にA評価といたしました。

その理由、意見等として、東書につきましては地理的分野、歴史的分野をつなぐ記述や資料が多いこと、また、巻末資料の法令条文が記述量に優れていることなどが理由として上がりました。

帝国につきましては、生徒にとってなじみ深い題材等の工夫があること。また、本時の学習で課題が明確に示され、QRコードの工夫など様々な工夫があることなどが上げられました。

また、審議委員会では、他社に関する意見等として、教出、資料が充実し、ディベートなど深い学びへと導く工夫があることなどがよい点として挙げられました。

最終的に審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、備考欄や資料、関連する記述量が多く、学習内容をさらに深く理解する上で有効であるということから、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東京書籍を審議委員会としては推薦いたします。

社会（公民的分野）は、以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御質問等があればお願いいたします。いかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長 御質問等がなければ、採択にふさわしい教科用図書の絞り込みを行いたいと思います。各委員のお考えを伺いたいと思います。

それでは、恐れ入ります、星野委員からでよろしいでしょうか。

○星野委員 公民と地理というのはSDGsの概念を必要とする分野と考えておりまして、その点では各教科書、冒頭でSDGs的なものを皆さん載せていました。

その点で、東書に関しましては、社会系の教科書全部に同じ表が載ってまして、最初から17項目を押しつけるのではなくて、分かりやすいものを10個程度ピックアップして、こんなもんだよと入り込みやすいような記載があつて、いいなと思いました。

章の入り口に、東書ですと導入の活動、帝国ですと「学習の前に」、教出も学校評価でAが多かったので見させていただきました。「学習のはじめに」というところがあるんですけども、東書と帝国は漫画で始まってまして、入りやすいかなと思いました。

正直、この項目に関しましては、帝国のほうが昔と今を比較している部分がありまして、分かりやすいかなという気はしました。

単元ごとのまとめとしまして、東書ですと基礎・基本のまとめ、帝国ですと「章の学習を振り返ろう」、教出ですと学習のまとめと表現という項目があるんですけども、東書に関しましては2段階の設問で復習ができる形式になってまして、本人のレベルに合わせたものができるのではないかと判断いたしました。

歴史でも話題になっていました、もっと歴史ではなくて、もっと公民というのがあるんですけども、これに関しては正直ちょっと読みにくいかなという部分はありましたけれども、全体の評価からして、僕は東書がいいかなと判断いたしました。

○教育長 ありがとうございます。

古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も結論としては東書です。

調査委員会も学校調査も審議委員会も一致しているということと、これもまた実際に読ませていただいたときに、公民という教科に中学生が入るときに、身近なことから考えさせるアプローチになっているので、勉強しやすいのかなというふうに思いました。

あとは、歴史的分野などと同じなんですけれども、「チェック&トライ」と「みんなでチャレンジ」という形で、使いやすい教科書だろうなというふうに思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

今野委員、お願いいたします。

○今野委員 私も東書がいいと思いました。調査委員会、学校の評価、審議委員会、それぞれが一番いい評価でしたので、それと合致しております。

主な理由ですけれども、公民はどうしても抽象的な概念を扱うことも少なくないので、子どもからすると理解が難しくなるところも多いと思うんですけども、教科書の中ではなる

べく具体的なイメージを想起しやすいように、非常にいろいろ工夫してあります。

該当の内容に即して、的確な図表だとか、グラフ、写真など、資料をこまめに入れていて、腑に落ちる理解を可能としやすいなという感じがいたしました。

例えば、25ページに対立と合意というのがあって、その後の26ページから決まりを守るということになっているところですけども、その上のほうの事例で考えさせる問題で、部活と体育館の使用のトラブルをかつてどう解決したか。それから、時間が経って、状況変化の中でそれをどう見直していくのかということ、プロセスや条件に応じながらみんなで考えていくというところで、自分たちでルールをつくって合意していくんだという過程が現実場面に即した形で出でくる。それも理解が進むということの一例になるのではないかなと思います。

それからさらに、最後のほうでまとめの活動として例示されているのが、駅前の自転車駐輪問題です。大きな課題なんですけれども、そういう流れの中で行くと比較的取りつきやすいかなと思いました。

また、関連で言いますと、帝国では最初のほういきなりマンションの騒音問題を解決しようということで、実際にはなかなかマンションの住民の騒音をどう解決するのか、実際問題としてとても難しい問題が出てくるんですけども、それよりはやりやすいんだろうなと思いつながり読みました。

それから、第4章の暮らしと経済の導入のところで、経営者としてコンビニをどこに開店したらいいかという課題が出て、いろいろな条件の中でどこをどう選ぶのか。子どもたちにとってはとても興味深いテーマですし、きっと真剣に考えるんじゃないかなと。

しかも、その章でどんなことを取り上げていくのか、各節の学習テーマにどうその問題がどう関係していくのかということで、その後の展開も分かるようになっていて、全体の見通しがとても立てやすくいいなと思いました。

それから、各章の最後に探求ステップの問いというのがあって、節ごとに関するテーマが出されるんですけども、そこに空欄の部分がかなりあって、自分で若干の記述をするようになっています。こういう問題を考えたときに、自分の区切りごとの理解を自分の言葉でちょっとでも書いておくというのは、後々いろいろと考える上でも役に立つことなので、いい構成じゃないかなと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私も結論から言いますと東京書籍がいいと思いました。

読んでいて、身近に感じる内容がすごく多かったんですね。

皆さん、いろいろ御指摘されていたと思うんですけども、それも踏まえて、いいなと思ったのが、東書は社会科全部に言えるんですけども、見方・考え方というコーナーがあって、例えば38ページです。これも基本の基本なんですけれども、違いの違いと書いていますけれども、人とどう違うのかというのが非常に分かりやすい事例で書かれている。これだったら中学生がぱっと見て、「あっ、自分とこういうところで違う人がある」となると思うんですね。これは非常に分かりやすいなと思いました。

それから、全般を通じて社会を身近に感じるように、社会と子どもを分離してなくて、自分はもう社会の中に含まれているんだという書き方が通されています。

これはなるほどなと思ったんですけども、100ページの左側に人の一生と法律というところがあって、生まれてから、6歳になったらと、法律と自分がこんなに関わっているんだというのが非常に具体的に書かれています。ああ、そうなのかという感じで子どもたちも思ってもらえると思うし、これからも法律と関わっていくんだろうなと思わせる。

行政のところにしても、まとめの活動の中で、市長になって条例をつくってみようとか、いろいろ面白い試みをしている。

今風だなと、これはどうしても必要だなと思ったのが、136ページの契約のあれこれ。こういう時代になったのかと思いましたけれども、自分が何かを契約するときに、どういうふうなことに守られ、もしくは守っていかなければいけないかというのが具体的に書かれています。このあたりは非常にすばらしいなと思いました。これ1冊、私も持っておきたいなと思うぐらい優秀な教科書でした。

もう一個非常に特徴的な、「みんなでチャレンジ」。これも社会全てに含まれていますけれども、身近なところをみんなで考えてみようというすごく小さな単位で考えるということに非常に向いているなと思いました。

帝国も見ていたんですけども、帝国のほうは、どちらかというとな非常に大きなテーマで書かれていることが多くて、例えば163ページにあるような赤字バス路線に税金を使うべきか。これは議論のテーマとしては面白いんですけども、じゃ、自分の身近に考えられるかという、ちょっと難しいかなと思いました。使われる内容もとても難しいかなと思いました。

ただ、帝国書院は地理も歴史もそうなんですけれども、対比というのを非常にうまく使われていて、207、208ページの見開きで、レポートの修正前・修正後とあって、これだとよくないけれども、ここをこう直すとこんなによくなるよという、使用前・使用后ということがちゃんと書かれていて、こういう対比はとてもいいかなと思いました。

いろいろ鑑みまして、公民的分野は東京書籍がいいかなと思いました。

以上です。

○教育長 羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 個別のお話がいろいろ挙げられましたが、基本的に東書がいいと思っています。

一つは、東書は、社会科、地図も入れて持続社会をつくる、それに向けてという姿勢が各項目にあるんですね。歴史的分野では触れなかったけれども、歴史も東書の270ページに持続可能な社会に向けてとあります。

社会という教科書の基軸をなす持続可能な社会をつくる。つまり、理想型の基本を教科書の中に取り入れて、それを具体的に身近に感じられるような展開をしている。ここが東書のよさだと思うんですね。

断片的に挙げれば、それぞれのところにそれぞれの工夫があって、それはそれでいいですが、これからの社会をつくっていく上で、教科書が深い学びのために何を考えさせていくか。この姿勢において、東書には一貫したものがある。

ですから、歴史でも持続可能な社会をうたう。

それから、地図や地理は当然ながら、そういう教科書づくりの足場がきちんとしている。これが非常に重要だと考えているわけです。

具体的に公民の教科書について言いますと、例えば東書のほうは人権というものにウエートを置いています。これも持続可能な社会の一環と受け取れるような表記がありますが、つまり、憲法の国民主権とか、平和主義とか、基本的人権、これはどの教科書でも触れているわけですが、東書はさらに平等権、社会権、自由権、あるいは生存権とか財産権、そういうような各個人が持つ権利というものを幅広く説明している。これも持続可能な社会をつくる上での個々人の足場であるという、基本的な理念ができていると僕は思いました。

内容的には、各教科書、それほど差があるわけじゃなく、どこが格別悪くて、どこが格別いいというような印象はありません。

学んでいく子どもの立場からすれば、いろいろな評価があるでしょうが、我々は一応社会を知ってきているから、それは自分の生活環境の中で社会というものをどう見るかという見

方だから、大人の立場では必ずしもない。つまり、それを教えられる子どもの立場で考えなければいけないと、そう思うわけです。

その意味であまり教科書の内容的な格差というものは感じませんが、あえて東書でいえば、例えば16ページの情報技術、あるいは、72ページのもっと公民というところでアイヌと人権に触れたり、あるいは、面白いところでは126ページの空き家・廃校を資源として考える取上げ方とか、あるいは、196ページのこれからのエネルギーを考えるというような、将来展望とつなげる編集が見られる。このちょっとしたコラムにそんな工夫が見られると思います。

東書でいいんですが、若干問題もあるかなと思うのは、東書の84ページに世論とメディアというところがある。世論を多くの人々によって共有されている意見という表現がある。しかし、世論というのは多くの人々に持たれている意見を言うのではなくて、世論というのは多様にあるということで、その点は帝国のほうで、政治の部分ですから、政治に関する人々の意見というような表現をしていて、多くの人々が言うことが世論という設定は、世論調査のようなことからいえばそういう印象が強いが、教科書としては世論というのは多様にあるんだということ。そこに収められて多数意見が形成されるという、この世論という考え方が、ちょっと僕は東書にはなじまなかったです。

それから、82ページの今の政治の部分ですが、ちょっと古いですね。これは訂正するのかなのか分からないけれども、例えば自由党というのがあります。これは今はなくなったんですね。山本太郎のれいわ新選組と合体して、なくなった。

つまり、4年間使う教科書であるから、こういうところは変わっていく。僕らでも4年前にどの政党がどうだったか、分からなくなるぐらいのことだから、なるべくならば、こういう触れ方は、「今」というところにこだわり過ぎないで、もう少し検討が要ると思うんですね。

その点は、帝国のほうも同じことが言えますが、73ページに党首名があるんですね。しかし、党首はころころ替わるんです。それが日本の政治なんですね。だから、党首名があってもいいけれども、図表みたいなものにしてしまうと、人事的な変化はこまかいところまでは必要でもないし、教え切れないんじゃないかなと思います。。

それから、党首名もそうですが、現有議席の数があります。これも4年後には、つまり来年の9月までには、あるいは今年の秋かもしれないが、選挙があつて、議席が変わっていくわけです。これも何か工夫がないと、社会の変化に対する教科書の適応性が弱い。やむを得ない問題ではあるんですが、こういった、あると分かり切った変化に対応する教科書という

ものをどうしたらいいのか。もうちょっと教科書会社の工夫が必要なんじゃないかなと思いますね。あるいは、「今は」というような資料を提供するのか。ずっと同じ党首ということは最近では珍しいぐらいだから、何か工夫が必要じゃないかなと思っています。

というような問題をはらみながらも、東書が比較的いいと思い、推したいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

私も東書にしたいと思います。

例えば、東書の39ページ。気づいたことを出し合おうというコーナーがあるんだけど、ここで新しい人権が認められてきたのはなぜでしょう、というのが出ていて、その流れで人権が出ていて…という点が、非常にスムーズに流れるんですね。

それから、暮らしと経済のところですけども、面白いなと思ったのは133ページあたり。この設問がすごいですよね。消費者主権とはどのようなことを意味しているのか、本文から抜き出してみようといって、契約を結ぶときの注意点は何かとか、暮らしと経済のところの「チェック&トライ」の設問は、どのページを見てもなかなかビビッドな感じで、非常にいいなと思います。

人権を大事にするということもそうだし、裁判のところもすごいですよね。合理的な疑いを入れる余地がないというのはどういうことなのかとか、模擬裁判をやってみようとか、死刑について考えてみようとか、かなり生徒には強めなページもあって、かなり先生の力量が問われるなと思っています。ということで、東書にしたいと思います。

それでは、ほかに御意見等がなければ、採択にふさわしい教科用図書について絞り込みを行いたいと思います。

社会（公民的分野）については、東京書籍発行の教科用図書を候補とすることによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。

次に、地図について、審議委員会ではどのような審議がされたのか、御説明をお願いいたします。

○池田教科用図書審議委員会委員 地図についての審議・検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは帝国で、10校中8校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果は、東書、帝国が共に総合評価でAでございました。

審議委員会では、東書、帝国共にA評価といたしました。その理由、意見等として、東書はSDGs、国際社会での問題についてのページや、これを考え、調査するための投げかけがよいこと、また、サイズがコンパクトであることなどが挙げられました。帝国につきましては、統計的資料が豊富であること、色使いに工夫があり、大判なことは地図の世界に引きつけられるといった意見が上がりました。

最終的に審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、地図、資料、グラフなど豊富であり、生徒自らが世界の諸課題について考えることができることから、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった帝国を審議委員会としては推薦いたします。

地図は、以上でございます。

○教育長 説明は終わりました。

それでは、御質問等があればお願いいたします。いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 御質問等がなければ、採択にふさわしい教科用図書について御意見をいただきたいと思っております。古笛委員から、お願いします。

○古笛委員 これも地理と同じで、すごく悩みましたが、最終的には帝国かなということになりました。

調査委員会とそれから学校調査、審議委員会、全部一致して帝国を推しているというところではあるんですけども、先ほど地理でもお話しさせていただいたとおり、前回のときは全く違います。

前回は、帝国で全く問題ないというぐらいだったんですけども、今回は東書のほうが社会に関しては全科目ともすごく面白かったです。読んでいて、先ほど羽原委員からもお話があったんですけども、何か社会としてこういうコンセプトで、こういう方向性で、というのが、細かく読んでいて、こちらにも伝わってきました。

地図に関してもそうで、ある意味、帝国は安定していて、世界の地形から始まって、世界の気候というところからそれぞれの解説へという形なんですけれども、東書のほうは最初に世界全体の環境問題とか、環境資源、エネルギー問題、それから人口、貧困問題、紛争、難民問題、そういうところから始まっています。地図をただ地図として使うのではなくて、世界の中における日本や私たち、それから歴史の流れにおける今の私たちというような視点で

地図が読めるというのは、物すごく面白いんだなと思いました。

とはいうものの、ちょっと気になったのは、帝国のほうが日本の統計の資料のデータが新しいというところ、また、資料の数が多いうところが現場の先生方が評価されていたので、そんなところで悩みつつも、帝国にしたというような状況です。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、今野委員、お願いいたします。

○今野委員 私も帝国が一番いいと判断しました。調査委員会、学校の現場での評価も高い。審議委員会のほうの推薦も一番ということで合致すると思います。

地図、資料共に非常に豊富で充実していると思います。

それから、今もお話に出ましたけれども、版型が大きいのは、地図の場合には断然有利だと思うんですね。学習するときに、非常にゆったりと見られますので、意外とこれは大きいなというふうに思いました。

それから、東書も内容的にはとても素晴らしいものだと思います。特に、今、古笛委員からもお話が出ましたように、アジア州などの地図の地域ごとの本体が取り上げられる前に、世界全体ということで、世界地図資料の読み取り、文化や産業、環境など、いろいろなテーマごとに世界を見るような形で、ずっとページが割かれているんですね。

帝国にもそうした内容はあるんですけども、ややあっさりしていて、むしろ後ろの資料編でがちり出てくるという感じなんですけれども、東書のほうは前のところで、広い視野で、いろいろなテーマで世界を概観する、その中で日本を見るというふうなことが出てきますので、最初にこの学習をしていくと、その後、個別の地域を見るのにも、視野を広げて世界に向き合うという感覚を身につけるのにとってもいいのではないかと思います。

いずれにしても、帝国を推したいということでございます。

○教育長 ありがとうございます。

山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私もこれは非常に悩みましたが、私個人としては東京書籍の地図を選びたいと思いました。

理由は幾つかあるんですけども、まず地図のデザインという点で変ですけども、色の使い方が非常にビビッドなんです、帝国書院のほうの方が明るいというか、派手というか。見てみると、非常に疲れるという点で変ですけども、見るときに見づらいなと思ったのが1点です。ともすれば、ちょっと幼稚という点で変ですけども、すごく明る過ぎるなと思いました。

それに比べて、東京書籍は非常に落ち着いた色合いで、地名を探したりするときに、探しやすいのではないかと思います。

これは教科書との連動というところになると思うんですけども、例えば先ほど言った世界全体、東京書籍の11ページでいうところの貧困問題ですとか、SDGsに関するところを、地図という切り口で非常にきれいに表しているなと思いました。特に出生率ですとか平均寿命を見ながら子どもたちが何を考えるんだろうというところで、切り口としては面白いなと思いました。

全てのページに関係しているんですけども、東京書籍の95ページ、これは地理との連動だと思うんです。東京書籍の教科書は各地方ごとにテーマが決まっていて、九州地方だと歴史という切り口で地図を見ようというテーマがあって、その資料があります。地図帳だけではなく、資料集という位置づけがあるので、もし教科書が東京書籍であれば、地図帳は東京書籍にしないと、多分、効果が半減するだろうなというふうに思っています。

また、取り上げ方なんですけれども、104ページですと、原爆投下時の広島市という形で、地図と被害の関係が分かるようになっており、同じように広島を取り上げている帝国書院でいうと、96ページの下のほうに、水害の碑が載っています。2年前でしたでしょうか、広島で大水害があって、そこに碑が建っている。こういうことから歴史を学ぶと。これはどちらもすごく面白かったんですけども、図の表し方などが、私は非常にシンプルな東書のほうがいいなと思いました。

取り上げている地図とかグラフの量は少ない、もしくは、小さいのであまり載せられないのかもしれないんですけども、取り上げているテーマが今風というか、現在に即しているものが多いなと思って見ていました。

例えば、東書の112ページで京都、奈良を訪れる観光客というのが出ていて、最近どうなっていますかと。今、観光はちょっと落ち込んでいますけれども、そういうところで議論ができるようになっている。

また、特徴的だなと思ったのが、174ページの農林水産省の生産というところで、何だか編集方針が思い切り出ていると思うんですけども、東書は1位のところだけ色がついていて、あとは全部同じ色なんです。だから、1位のところを中心に書かれるという書き方をしています。工業製品についてもそうです。ところが、帝国の172ページ、これは多分地域ごと、関東、関西というふうにまとまっています。

こういうふうに見ていると、地図的な内容をすごく詰め込んだのが帝国書院で、いわゆる

ファンクションというか、機能的にまとめられているのが、東京書籍なのかなと思っています。

例えば、その前のページの主な宗教というところ、東京書籍は記号で書かれていますが、帝国書院は文字で書かれているんです。これは眺めたときに、ぱっと見て、どのエリアほどの宗教が多いんだなというのを感じるには、私は記号のほうが直感的にすごく分かるなと思います。。文字を赤字にするのか、色をいわゆるマーカーで引いたような感じにするのか、そういう表記の仕方も非常に細やかにできていて、ぱっと欲しい情報にたどり着けるなという工夫がすごく見られましたので、東京書籍の地図のほうが子どもたちには向いているのではないかなと判断しました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

続いて羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 地理の授業と地図とがリンクするかどうか。これは東書がリンクしています。帝国のほうは必ずしもリンクしない。リンクする理由は、先ほど言ったような持続可能な社会、つまりSDGsの立場、これが一貫して地図にも表れている。これが非常にリンクさせやすく、深い学びという大方針に沿っている。従来の地理、地図の授業よりも狙いがはっきりしていて、平板にこの地域がこうなっていますよという意味ではなくて、地球上に起きているいろいろなトラブル、あるいは障害、こういうものについて、この地図でもかなり東書のほうが丹念にトレースしている、現代社会になじんでいるということが言えると思います。

僕が9年ほど住んでいた九州のページは、帝国は87、88ページで、東書は93ページから96ページまで。地図の大きさは小さいけれども、ちゃんと4ページ取ってある。これを比較すると、自然とか降水量、人口分布、農業、あるいは交通、こういうものはほとんど同列に出ています。これはどちらでもいいという部分です。

それに対してどこが違ってくるかというと、東書は図表や絵図を見ていくと、九州については、今もそうですが、問題になるような台風・土砂災害というもの。それから、火山、温泉、地熱、原爆投下のあった長崎、あるいは水俣病の認定患者の問題、あるいは環境都市、つまり環境にウエートを置いている北九州を取り上げていることというような、社会性のある、九州が今抱えている問題の具体的な図、そういうものをよく示している。

なぜ僕が帝国が平板だと言うかということ、阿蘇・九重の産業、あるいは宮崎平野の野菜づくり、福岡市中心部の地図、長崎市、これは同じ長崎でも原爆という視点から捉えるか、市

街地として捉えるかという違い。あるいは北九州も両方に出ているが、これは帝国も面白いんですが、北九州工業地帯の60年から2017年への変化というもの、これは面白いと思います。一方で、東書のほうは今、環境都市がどう具体的なものになっているかということを示しています。この違いはありますが、これはどちらもいいと思います。

それからさらに帝国が平板だと思うのは、シラスの分布と畜産です。あるいは防災についてはこれももう相当昔の雲仙普賢岳の問題に限定的に触れている。東書の取り上げた問題、課題の方が九州の子どもたちにとっては非常に身近な問題であり、今の社会で学んでおいたほうがいいと。

ほかの地域を見ても、若干そういう傾向はあります。

それから、歴史舞台というのが東書のほうにあります。これも、今度は横ではなく、縦系列で見ていくと、古代歴史の舞台として弥生の板付環濠集落遺跡、あるいは遣唐使の道、元禄ルート、あるいは福岡にある防塁、あるいは隠れキリシタンのこと、長崎出島のこと、八幡製鉄の果たしてきた役割、あるいは今問題になっている軍艦島の問題、沖縄についてはひめゆりの塔というように、各県各地の歴史遺産のようなことに触れながら、過去の社会状況について触れようという努力があります。この点、帝国はあまりそういった角度は見られません。

それから、地図自体も、東書のほうがページが小さいこともあるが、東書の小さい文字のほうが、地図の中ではかえって見えやすいんですね。帝国のほうが大きいし、見えやすいとばかり思っていたら、そうでもないんですね。

ほかにもいろいろとあるのですが、この辺にしておきます。まだいろいろと言う材料はたくさんあるのですが、要するに地図と地理が一体化した東書のほうが、深い学びについてはいい教科書である。子どもの立場から考えて、僕はぜひ東書を選びたいと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

星野委員、お願いいたします。

○星野委員 まず、最終的には地理的分野の教科書との連動ということも考えないといけないので、今日の時点では一応帝国書院という形で話を進めていきたいと思います。

地図の色の濃淡、見やすさという点でいえば、帝国かなと思っていました。

SDGsに関しては、冒頭のほうに世界地図がいっぱいあるんですけども、僕は正直この内容というのは教科書、公民的分野または地理的分野の教科書に載せていただきたい内容

かなと思ったので、評価の対象からは外させていただきました。

内容までは詳しく踏み込んでいないんですけれども、資料の多さとか新しさに関しては確かに帝国のほうが多いということ。版が大きいので地図が見やすいという点で帝国を選ばせていただきましたが、最終的に地理の教科書が何になるかによっては、また変動する可能性はあるかなと思っております。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

私は帝国書院の地図を推奨したいと思います。

資料の多さとレイアウトの無理がない感じです。地図帳といっても、資料集として十分活用が可能かなというふうに思います。

こういう資料が世の中にあるんだと分かっているだけでも相当大きいんですよ。後々、高校生になっても大人になっても、こういう統計があるはずだと、こういう統計は世の中にあるんだと分かっているだけでも相当大きな違いがあるんだろうなと思います。

版が大きいからやりやすいというのはあるかもしれないけれども、資料のレイアウトも非常に読みやすいということで、私は帝国の地図帳を推したいと思います。

以上でございます。

○羽原委員 説明を補強させてください。

帝国のほうが大判であるから、当然、図表とか地図とかは多く載っている。これは認めております。

ただ、数で見るとそうかもしれないが、質という面を見逃してはいけない。質という意味は、先ほど九州の話でもるる言ったように、質については小さい東書のほうが優れているのではないかということを、審議会では突っ込んだ審議をしていただきたかったと思います。

以上です。

○教育長 それでは、地図については、東京書籍発行の地図と帝国書院発行の地図の2社が優れているということで、この2社を採択の対象とする教科用図書の候補とするということではよろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。

それでは、この2社を候補とさせていただきます。

社会科調査委員会委員長は、ここで御退席いただいて結構でございます。ありがとうございます。

いました。

〔社会科調査委員会委員長 退席〕

○**教育長** 次に、英語について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いします。

○**池田教科用図書審議委員会委員** 英語についての審議・検討の内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価が多かったのは東書で、10校中9校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果は、東書が総合評価でAでした。

審議委員会では、東京書籍をA評価といたしました。その理由、意見等としては、全学年で幅広い題材を扱っており、他教科との関連や多様な人物について学ぶことができること、写真、映像など導入の工夫や生徒の理解段階、進行状況を理解しながら授業を進めることができる工夫があることなどが上がりました。

また、審議委員会では、他社に関する意見として三省堂、多様な題材が掲げられていることなどがよい点として挙げられました。

最終的に審議委員会として学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、家庭学習においてQRコードの活用が図られるとともに、ほかの面でも実用的な教科書であることから学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東京書籍を審議委員会としては推薦いたします。

英語は以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。

御意見、御質問があればお願いいたします。

いかがでしょうか。

○**山下委員** 授業は基本的に教科書を使って行うと思うんですけども、これ以外に何か教材というのは使われるのでしょうか。

○**教育指導課長** 学校によって多少の差異はあると思いますが、あくまでも主たる教材としては、教科書となります。

あとは、ワークなどを多少併用するようなことはあるかと思えますけれども、あくまでも教科書が中心でございます。

○**山下委員** わかりました。

○**教育長** ほかに御質問等ございますでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** それでは、各委員の推薦する教科用図書を伺いたいと思いますが、今野委員から、よろしいでしょうか。

○**今野委員** 私は東京書籍でございます。

調査委員会、学校評価、審議委員会評価でも評価の高かったものでございます。

NEW HORIZONですね。

最初のほうからずっと見たんですけれども、中学1年生にしてはいきなりやや進んだ内容から始まるものだなと思ったんですけれども、よく考えてみたら小学校から英語が始まっていますので、そのつながりでこういう形になるんだろうなと思いました。

それはどこも同じなんですけれども、NEW HORIZONはほかの教科書に比べるとレベルが高いというか、少し進んだ感じがしましたけれども、上手に小学校との連携が計算された内容になっているんじゃないかなと思いました。

オーラルのウエートがかなり高いと思いますけれども、それだけじゃなくて、リーディングやライティングの教材もバランスよく配置されています。

ステージアクティビティ、スモールトーク、レッツリードなど、いろいろ幅広く学習できるようにしている感じがありました。

それから、一番よかったなと思っているのは、教科書の早い段階で、18ページですね、英語の歌でカーペンターズの「シング」があって、その下にビートルズの「ハローグッバイ」が出ているんですよね。メロディは大体分かるし、非常に歌いやすい歌詞で、世界の名曲を中学1年で習って歌えるなんて、すばらしいなと思いました。ちょっと先に進むと、またジョン・デンバーの「カントリーロード」とか、ロッド・スチュワートの「セイリング」とか。とても感激しまして、これ以外ないなと思ったところです。

東京書籍を推奨ということでございます。

○**教育長** では、山下委員、お願いします。

○**山下委員** 私も結論から言うと、東京書籍です。

私も中学の教科書を自分が見てからはしばらく見ていなかったんですけれども、あまりの変貌ぶりに驚きながら見ました。

ただ、全ての教科書と比較したんですけれども、東書のNEW HORIZONが一つ抜きん出ているなという感じがしました。

まず、日本の教科書っぽくないですね、もう既に。シンガポールとか諸外国の英語を母語

としている国の教科書のような、それぐらいいい教科書だなと思いました。

特にレッツトークとかレッツライディング。この辺の内容が非常に高度なんです。正直、これを3冊やっておけば、そこそこの英語はもう十分だろうというぐらいの内容だと思います。

ただその分、英語の先生の力量がもろに問われる教科書になっていると思います。

特に3年生の内容は非常に高度で、例えば、スピーチなんかは当たり前なんですけれども、102ページ。これはレッツ・ハブ・ア・イン・ディベートですけれども、ディベートのやり方を書いているんです。105ページに至っては、どういうワードを使うと説明しやすいか。これはビジネス英語に載っていたような内容がもう中3生でやるんだなど。

最後の114ページはすごくよくて、学び方コーナーですけれども、これからの英語学習法について。卒業してからどういうふうに英語を学んでいこうかと。ディクテーションとかシャドーイングとかは定番ですけれども、ちゃんとこれからの学び方を書いて、最後にメッセージを書いていますけれども、そういう英語に対する姿勢というのはすごくいいなというふうに思いました。

ただ1点、ちょっと残念だなと思ったのが、1年生の29ページの下ですけれども、ハンディカムを持っているんですが、もう既にハンディカムというものが世の中にほとんど存在せず、恐らくこれはスマートフォンで撮っているというのではないかなというふうに思いました。

また、これは難しいなと思ったのは、2年生の96ページなんですけれども、ポスターセッションが載っていますね。これは本当に中学2年生でやるんですかと。なので、先ほど他の補助教材を使うんですかとお伺いしたのは、これは補助教材がないと、よほど先生がしっかりしないと、ついていきかねるというか、せっかく教科書のレベルが高いので、それに合わせて先生も変わっていかねばいけない時代が来たんじゃないかなというふうに思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 文句なしに東書です。いいと思いました。

3年生のを見ると、SDGsがここまで出ていて、それは確かにグローバルに考えれば必要なことだなと思いつつ、このしつこさはいいい意味かなと解釈をした次第です。

ヒアリングとスピーキングがまず前面に出てきて、それはそれでいいと思うんですね。僕らがやった英語よりははるかに実践的でいいと思う。

ただ、あまり英語を教科としてというか、授業としてという位置付けだと、どうしても3年生ぐらいになると、それが受験科目としての英語に切り替わってくる可能性があるんですね。特に塾なんかは明らかにそっちへ向かうわけだから、なるべく公立の学校は受験という方向には行かないという意識を持っておくべきだろうと。つまり、人間関係のパイプの役を言語、つまり英語が果たすわけで、必ずしも学習としての、授業としての英語という観点よりは、コミュニケーションを取るためのツールなんだという視点を、ぜひ現場の先生方が捨てないで、それを基軸にして取り組んでほしいというのが、僕を感じです。

どうしても英語嫌いが出かねないから、その配慮が大切です。つまり、基礎を乗り越えて面白さが出るから、その基礎の段階で嫌にさせないような工夫をぜひ、これは先生の側に頼むしかないんですね。子どもにそんな理屈を言っても、教え方でそうなってしまう可能性もあるから、ぜひ基礎を楽しく乗り越えさせてもらいたいと思います。

それから、なるべく英語を使えるような場を持てるように。さきほども言いましたように、小さい声でしゃべるとどうしても度胸がつかないから、外人と直接出会ったとき、言葉は分かって意識として出てこないという、これは日本人は概してそういうもので、そこをなるべく多くの子どもたちがなじんでいくためには、そういう基盤みたいなものをぜひ配慮しながら取り組んでいただければと思います。

○教育長 それでは続いて、星野委員、お願いいたします。

○星野委員 私も東京書籍のNEW HORIZONを推薦いたします。

確かに、最初に1年生のものを見たときに、こんなに難しいのと思って考えたら、小学校から始まっていたんで、これぐらいは当たり前かなというところがあったんですが、確かに分かりやすい。まず、目次を見たときに、目標とかフレーズが目次に載っていて、これを勉強すればいいんだというのがすぐ分かるのが大変ありがたかったです。

ほかにも、光村もそういうふうになっていたんですけども、全体の評価から言うと東書がいいかなと思います。

あとは、文章と挿絵の配置なんかを見ても、東書と開隆堂が割とごちゃごちゃしてなくて、文章がどんとあって見やすい。文が見にくくならない位置に挿絵が入っていて、大変見やすいなと思いました。

内容に関しましても、皆さんおっしゃっているとおり、本当にこの教科書をやっていれば、

ひょっとすると本当に大学受験まで十分もつような内容ですよ。論文を読むには難しいかもしれないですけども、少なくとも大学受験ぐらいまでは使えそうな内容なので、とてもいいと思いました。

小学校もたしか東書ですので、それからのつながりを考えてもこれがいいかなと思いましたので、NEW HORIZONにさせていただきました。

○教育長 ありがとうございます。

古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も東書です。

小・中接続というか、小学校で習った単語などをそのまま中学校の学習にも引き継いでいけるということがいいなというふうに思いました。

とはいうものの、ほかの教科書も読んで、題材などとして取り上げられていることも結構面白かったので、ほかの教科書が劣っているというわけではないんですけども、調査委員会も学校調査も審議委員会も一致しているというところで、東書でいいかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

私も結論的には東書です。

実は、社会の歴史的分野に台湾の八田與一の話が載っているんですが、この英語の3年のところに八田與一が出てくるんですよ。3年生の118ページです。要するに、台湾でかんがい用水を作った、農業の礎をつくったという話が載ってくるので、社会で学んだものを英語で勉強すると、すごい話だなというふうに思いました。

ただ、私、教育出版社の教科書なんですけど、これはいいなと思って、ぜひとも新宿の先生方もやっていただくといいなと思うんですけども、1年だと134ページです。何がいいなと思っているかという、質問に2つ以上の文で答えましょうというんですね。イエス・アイ・ドゥだけじゃないという。要するに、会話がつながるんですよ。これが1年からついているんですよ。2年生でも138ページ以降ついていて、3年生でも122ページ以降ついていて、これは何か新宿の英語の授業でも、イエスと言うだけでは会話がつながらないので、会話がつながるためには2文で答えるというのはすごくいい取組だなと思っているんです。いい取組は参考にしてもいいんじゃないかと思うので、授業でこういうことを参考にすることもありかなと思っています。

それでは、英語の教科用図書の協議内容について確認をしたいと思います。

英語について、本日審議した中で、皆様の総意として、東京書籍発行の教科用図書を採択

の対象とする教科用図書とするということよろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。

それでは、そのように進めます。

ここで、本日までの協議で1種に絞り込めなかった種目の協議日程についてお諮りします。

本日まで協議で1種に絞り込めなかった種目は、数学、理科、道徳、書写、それから社会(地理的分野)、そして地図になります。

この種目については、7月27日に臨時会を開催し、改めて協議を行い、1種への絞り込みを行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 よろしく願いいたします。

それでは、そのように進めさせていただきます。

以上で、本日の協議は終了いたしますが、事務局から何かございますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

◎ 閉 会

○教育長 ありがとうございます。

それでは、本日の教育委員会を閉会といたします。

午後 5時07分閉会